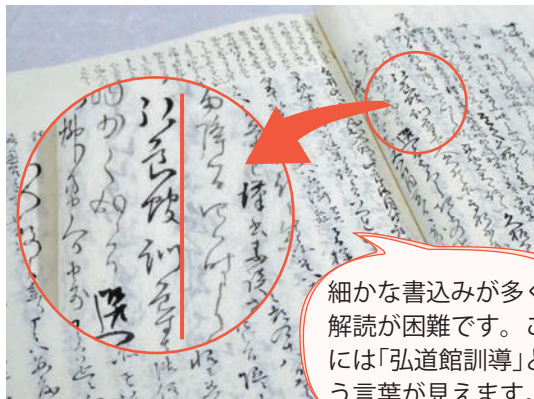




▲石河明善日記(水戸市指定文化財)…藩校弘道館の訓導(教師)を務めた水戸藩士・石河明善の日記。嘉永5(1852)年から慶応2(1866)年までのできごとを詳細に書き残しました。



翻刻した文字を
何度も確認します



細かな書込みが多く、
解読が困難です。ここ
には「弘道館訓導」とい
う言葉が見えます。

第6回

古文書を 読み解く

歴史
部門

博物館の仕事は、展覧会を行うだけではありません。資料を調査・研究し、そこからわかる水戸の姿を皆さんに伝えるという、大切な仕事もあるのです。問合せ／市立博物館(☎226-6521)

市立博物館は、1万点を超える歴史資料を収蔵しています。その多くが和紙などに書かれた古文書。漢字や仮名が省略された、くずし字というミミズのような文字で記されているため、解読が困難です。そこで、くずし字で書かれた資料を現代の文字に直す「翻刻」という作業を行っています。

博物館では現在、江戸時代の日記「石河明善日記」の翻刻作業を進めています。この日記は、水戸藩内で起きた事件のうわさ、家で開いた塾のできごとなど、当時の様子を記録した最重要資料の一つとして古くから知られていました。しかし、明善の文字はとても読みづらく、難しい古文書でもありました。そこで、博物館では平成24年度に「石河明善日記」を翻刻するための専門チームを作りました。8人のメンバーは、水戸藩の古文書に精通した先生ほか

り。日記を何度も読み、解読していきます。しかし、中にはくずし字辞典を使っても読みにくい字が出てきます。その時は、前後の文脈から当てはまる字を想定し、一文字ずつ探し当てていくのです。その後、ほかのメンバーにも読んでもらい、誤りがないか時間をかけて議論します。こうした作業を6年間行い、ついに昨年度から翻刻された「石河明善日記」の刊行が少しずつ始まりました。

時間がかかる大変な作業ですが、翻刻することで誰でも資料を読むことができるようになり、活用の幅がぐっと広がります。「石河明善日記」のすべてが刊行されれば、水戸の歴史研究がさらに進むことでしょう。こうした地道な調査研究の積み重ねが、水戸の昔の姿を明らかにしていくのです。(水戸市立博物館歴史部門学芸員 藤井達也)

「みと歴史講座」に参加しませんか

「石河明善日記」からわかる幕末の水戸藩の姿を紹介します。

期日／①10月3日(土) ②10月11日(日)

テーマ／①石河明善日記を読む—安政2年10月 東湖死産のころの明善— ②弘道館訓導の日常—石河明善日記に見る日々の生活—

講師／①野内正美(茨城地方史研究会) ② 栃木敏男(茨城地方史研究会)

時間／午後1時30分～3時

場所／市立博物館

定員／各30名(定員になり次第締切り)

申込み／9月10日(木)の午前9時から受付めますので、電話で、同館(☎226-6521)へ

【発行】水戸市 ☎029・224・1111(代表)
〒310-8610 水戸市中央1-4-1
ホームページ / <https://www.city.mito.jg.jp>

【編集】みとの魅力発信課 ☎029・232・9107
☎029・224・5188 kounhou@city.mito.jg.jp